

3階西病棟この一年

3階西病棟婦長 工藤 仁美

病棟内の動勢

当3階西病棟は、産科・婦人科・小児科の、混合病棟として運営されており、平成12年には産科・婦人科の入院817件〔分娩は12週以降の流産・早産を含めた481件〕、小児科の入院741件の、計1562件の入院を受け入れた。

在院日数は、人工妊娠中絶・流産手術の日帰り

入院から、最長入院患者は、小児科入院の304日間と幅はあるが、おおむね産前産後6～7日間、小児科の呼吸器・消化器系の感染症による3～4日間程度を入院期間とする、短期入院型の出入りのはげしい一年である。これはまさに、産科・小児科混合病棟の特徴とかがえる。

次に、産科の中心となる分娩の状況は、下表のとおりである。

月	月間	妊娠週数別				勤務時間帯別			
	分娩件数	12～23週	24～36週	37～41週	42週以降	帝王切開	深夜勤	日勤	準夜勤
1月	35	0	2	33	0	5	13	15	7
2月	31	0	0	31	0	3	11	10	10
3月	49	1	0	48	0	4	17	17	15
4月	40	0	1	39	0	4	11	15	14
5月	42	1	5	35	1	7	9	20	13
6月	36	0	1	35	0	1	8	19	9
7月	54	1	3	50	0	5	11	24	19
8月	55	3	3	49	0	7	14	26	15
9月	31	1	0	30	0	5	15	13	3
10月	37	1	4	32	0	8	9	21	7
11月	34	1	1	32	0	3	6	18	10
12月	37	0	2	35	0	6	8	18	11
計	481	9	22	449	1	58	132	216	133

(但し、帝王切開には双子3件が含まれる)

個々にはあげなかったが、年間の分娩件数だけでみると、平成10年484件、平成11年448件、平成12年の件数は481件と、年々少子化が進む社会情勢の中、当院も分娩数は減少していくと思われるにもかかわらず一昨年に匹敵する件数に達した。

婦人科の手術に目をむけると、一年間で276件、内流産手術が79件、人工妊娠中絶が24件、付属器摘出が27件、子宮摘出が30件、腹式帝切55

件、その他が51件だった。

そのほか、婦人科では、IUGR管理入院、切迫流産・早産管理入院、不正性器出血などが、その対象だった。

小児科は、ベッド数15床のなかで741件の入院を受け入れた。そのうち主な疾患は気道感染症(気管支喘息を含む)499件平均3.97日間、急性胃腸炎71件平均2.9日間の入院が主なもので、日々入退院の繰り返しで過ぎていった。

看護活動

3階西病棟は平成12年を、谷津婦長のもと信岡主任以下助産婦11名、看護婦10名、准看護婦2名、看護助手2名の計26名で業務を開始したが、疾病による長期療養者、又長期出張と、欠員を出しながらも各係り活動をとうして病棟の目標を達成すべく活動を進めてきた。年度替りには退職者2名、新採用者3名そのご育児休業からの復帰など入れ替わりがあったが“看護を継続させよう”などの目標達成のため、勤務終了後に会議・勉強会をおこなった。

業務改善委員・学習委員を中心に看護システムを変更するための内容の協議を、繰り返し2月より、従来のチームナーシング+機能別から、日替わりチーム制に移行した。その後、記録申し送りの改善にも取り組んでいる。事故防止委員は、安全に看護を行い、患者様に安心と確実な看護が提供できるようにマニュアル作成や、病棟内での声かけをとうして事故防止に努めた。又、看護研究グループは安全に看護を進めるための“転落防止のためのベッド柵カバー”を考案し、発表した。レクリエーション係は、季節感を患者様に届ける

ため、ひなまつり・たなばた・クリスマスなどの行事を催し、皆様に喜んでいただいた。

このように、3階西病棟スタッフは有形・無形のなかで患者様に、暖かい、手の温もりが伝わわる看護を、継続てきに提供すよう活動してきた。こんななか10月の看護部の移動に伴い、谷津婦長が看護部付きとなり、私が跡を受けることとなった。大きく変わろうとする看護のうねりの中、谷津婦長が築いてきた3階西病棟の看護のながれを、私も受け継ぎより良い看護を継続的に提供すよう努めていきたい。

10月に行われた助産婦職能交流会では、地域の保健婦の方も多数参加頂き、川村医長の講演の後、施設と地域との連携について、真嶋看護部長も交え活発な意見の交換会もおこなわれた。この機会をとうし、施設内の看護から地域社会への継続につなげていきたい。

今年は新生児盗難というセンセーショナルで、産科病棟には新しい課題と問題をなげかける事件から幕をあけたが、今後とも山積する課題に3階西病棟の仲間達と協力して、とりくんでいきたいとかんがえる。

4階東病棟の1年を振り返り

4階東病棟婦長 田中直子

1999年の4階東病棟は、『安全な看護の提供と、思いやりをもって人と接する』を重点目標に掲げ、具体的には、

1. 患者さまおよび職員間の接遇に気をつける
2. 安全な看護を進めるために、常に確認を忘れない
3. 患者さま一人一人に合った看護過程を推進す

る

4. 日々の看護の振り返りをして看護研究を行う
5. クリティカルパスを検討し実施する
の5点を目標とし、スタッフ全員で取り組みました。

1. 患者さまおよび職員間の接遇に気をつける

平成12年は、病院機能評価を受審し1年が経過